

各社の考え方

□ 算定を行う背景・目的

- グループ全体で温室効果ガス排出削減に対する意識や活動を高める。
- サプライチェーン全体を把握することで、環境負荷の全体像を意識した取り組みができるかと判断。
- 地球保全の為に、サプライチェーン全体における取り組みがますます重要になり、社会的な要求になりつつある。

□ 算定結果の活用方法

- 商品開発や技術開発を行う上で、排出量の削減対策や効果に活用。
- ホームページやCSRレポートへの情報開示及び各種アンケートへの対応。

□ 算定のメリット

- サプライチェーン全体及びカテゴリごとの把握ができることにより、グループ全体としての目標が明確化。

□ 社内の算定体制

- 社内の関連部門よりデータを収集し、コーポレートコミュニケーション課が算定。
- 開発、設計に基づく建築物の使用時のエネルギー、工場における部材の生産時のエネルギー、施工現場でのエネルギー、輸送時のエネルギー、廃棄物、労務関連データを各部門が収集。

各社の考え方

□ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて

- 排出量の算定から大きなウエイトを占める「購入した製品・サービス」及び「販売した製品の使用」を考慮した、商品及び部品の開発を継続中。
- 省エネルギー住宅の供給推進(ハード面)と同時に、ご入居者への住まい方(ソフト面)についても提案。
- 省部材設計や工業化施工を更に推進。
- サプライヤーと協働して、CO2削減活動の企画提案を推進。

□ サプライチェーン 排出量算定の課 題

- サンプル集計から実データ集計に移行することによる作業負荷の増加を軽減するため、自動化の構築が必要。

□ その他

- 「購入した製品・サービス」の再生有機系建材部材「M-WOOD2」として、製造時に消費されるエネルギー量を少なくしています。

3

ミサワホーム株式会社

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・資材の購入量	● 調達量当たり原単位(※1)
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の調達金額	● 資本財の価格当たり原単位(※2)
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 電気等のエネルギー使用量	● エネルギー量当たり原単位(※2)
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 荷主分の輸送に係る燃料使用量	● 燃料当たり原単位(※2)
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別排出量	● 廃棄物種類別原単位(※2)
カテゴリ6「出張」	● 従業員数	● 従業員当たりの原単位(※2)
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 従業員数	● 従業員数・勤務日数当たり排出原単位(※2)
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● スコープ1,2で計上済	
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 該当なし	
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当なし	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 居住時のエネルギー使用量(30年間)	● 年間CO ₂ 排出量(自社計算)
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 未算定(情報収集できていないため)	
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● 該当なし	
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	
カテゴリ15「投資」	● 基本ガイドラインで規定される適用事業者に該当しないため除外	
「その他」	● オプションカテゴリのため除外	

※1: 日本建築学会LCA指針(2013.2)

※2: サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.1)

サプライチェーン排出量の算定結果

□ 算定結果

